

同窓会長挨拶 ～地の塩、世の光として～

未曾有の大震災から1年が経ちましたが、東日本大震災で被災された同窓生の皆様に改めて心よりお見舞い申し上げます。また、多くの尊い命が失われたことに対し、東北学院同窓会を代表して重ねて哀悼の意を表します。東北学院同窓会は母校を応援する最大の組織として活動しておりますが、「人知を超えた災害」により昨年は各支部・TG会・同期会等に5月末まで同窓会活動の自粛をお願いしました。その間、同窓会では同窓生の安否確認と各支部の被災状況の把握に努め、昨年7月に開催した東北管内支部長・TG会長会議において名取支部、石巻支部、宮古支部の3支部長から被災状況をそれぞれ報告していただきました。私は2007（平成19）年4月に同窓会長を拝命し、爾来、同窓会活動は地域社会との連携が不可欠であると申し上げてきたことから、この度の震災で被災された地域への支援として教育支援（文房具の進呈）と人的支援（無料医療相談と無料法律相談）を実施したところがあります。また、甚大な被害を受けた地域の皆様に対しては、東北学院同窓会が母校と連携して今後も献身犠牲と奉仕の精神で支援していきたいと考えています。復興にはまだまだ時間がかかると思いますが、同窓生の皆様方にも「地の塩」「世の光」として更なるご奉仕をお願いする次第です。

さて、1903（明治36）年11月25日に24名の同窓生により結成された東北学院同窓会は、今春新たに3,475名の会員を迎え、今日では167,193人の会員を擁するまでに発展して参りました。現在、東北学院同窓会にはニューヨークを拠点とする北米支部をはじめ日本国内に84支部と主に職域を同じくする117のTG会が組織されており、同窓生は経済界、産業界、医学界、教育界、官界、政界、社会事業方面、そしてそれぞれのご家庭で活躍されています。

私自身、東北学院中学校・高等学校で6年間学び、1960（昭和35）年に東北学院高等学校を卒業した同窓生であり、東北学院の同窓生であることを大変誇りに思っています。高校卒業後は、大学と大学院、そしてその後の教職期間を含めて約40年間を国立大学で過ごしましたが、2004（平成16）年4月に東北学院大学長として母校・東北学院に迎えられました。また、2007（平成19）年4月からは東北学院長をも拝命し、現在に至っています。さらに、2008年12月の会則改正を受けて東北学院同窓会の役員全てを同窓生の中から選任することになりましたが、私は新会則のもとに同窓会長に再任されました。ご承知のように、東北学院同窓会は東北学院が設置する学校（中学校、高等学校、榴ヶ岡高等学校、大学、大学院）を卒業した人たちで組織されていますが、16万余人が繋ぐTGコミュニケーションは東北学院同窓会の宝であり、また大きな力にもなると考えています。

東北学院同窓会は今年で設立109年目を迎えます。この伝統を誇る東北学院同窓会が地域社会とともに歩み、母校を応援する最大の組織として更に発展するために、皆様方からお力添えをいただきながら微力を尽くして参る所存です。変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、同窓生の皆様お一人おひとりに神様の豊かな祝福がありますようお祈り申し上げます。

平成24年4月